

I 中川政七商店 NKG倉庫

【調査目的】

中川政七商店の経営理念と事業展開について

【調査概要】

中川政七商店の経営理念と事業展開について説明を受け、その後NKG倉庫を見学。

○中川政七商店の概要について

- ・1716年、奈良晒という麻織物の問屋を始めたのが、中川政七商店の始まり。
- ・近年は、「日本の工芸を元気にする！」というビジョンを掲げ、奈良晒だけでなく、日本の工芸品全般を取り扱っている。
- ・日本の工房やものづくりをされている方と協力して商品を製作・販売する、小売業を主軸として、工芸メーカーのコンサルティング、販売支援、物流支援などを展開。
- ・全国各地に計68店舗の直営店を展開し、2025年の売上げは100億円を超える。

○中川政七商店の事業展開について

【SPA事業（製造小売業）】

- ・奈良のオフィスに社員約100名、そのうち20名ほどの商品開発チームがあり、商品開発チーム内にインハウスデザイナーを抱え、基本的に社内で商品企画を行っている。
- ・商品の良さを伝え、手に取っていただくために、コミュニケーションが重要であり、SNSやメルマガを実施するなどお客様との繋がりを大切にしている。
- ・国内を中心に事業展開しているが、近年、中国や韓国などの東アジアやヨーロッパでポップアップ店を中心に海外進出を進めている。

【産地支援事業】

- ・ビジョンである「日本の工芸を元気にする！」には、職人が経済的に自立できるように支援する意味も含まれている。
- ・製造小売業を通して、仕事をつくり出すことで工芸メーカーや職人を支援していたが、それだけでは支えきれないところがあり、コンサルティング事業を開始し、産地支援事業に発展した。
- ・産地支援事業は、大きく以下の2つに分かれている。

（経営支援）

- ・1対1のコンサルティングのほか、ブランディングや事業計画の講座を実施している。
- ・良いものをつくり続けるためには、経営状態を良好にすることが重要と考えており、コンサルティングでは、最初に決算書を確認して現在の経営状態を診断した上で、10年後、20年後にどのようになりたいのかをヒアリングし、その実

現に向けて、必要に応じたブランドの立ち上げや商品開発、さらには完成した商品をどのような方法で流通させていくかまで、一貫して支援している。

- ・コンサルティング事業を始めて約 7 年になるが、これまで約 70 ブランドの支援を行った。

(流通支援)

- ・中川政七商店での販売を希望する相談も多いが、良い商品でも、他の小売店で取扱う方がよいと判断した際は、商品やブランドの特性に応じた小売店を紹介し、取引に繋げている。
- ・合同展示会「大日本市」を主催。さまざまなブランドが小売店を中心とした流通関係者と商談し、商品に合った販売先を見つけられる場を提供している。

○NKG 倉庫見学

【1 階】

- ・3,000 パレットの在庫を保管できる。
- ・移動ラックと固定ラックを使い分け、限られたスペースを効率的に活用している。
- ・収容率を高めるため、天井の高さを通常より高い約 7.5 メートルとし、固定ラックは、通常 3 段のところ 4 段にしている。
- ・天井付近にたまる暑い空気を外に逃がす構造により、夏場でもエアコンを使わずに温度上昇を抑えることができる。実際に、外気温が 38 度のとき、倉庫内の温度を約 28 度に抑えることができた。
- ・中川政七商店が生地や部材をまとめて購入し、在庫管理まで行うことで、工芸メーカーや職人の材料調達・管理の負担を軽減し、ものづくりに集中できる体制を整えている。

【3 階】

- ・人が働くスペースで、1 部署あたり 20 名～25 名の従業員が勤務している。
- ・中川政七商店は自社工場を持たず、生地の染色や裁断などの工程ごとに専門工場に委託している。倉庫から各工場へ生地を発送し、加工後に倉庫へ戻して次の工程へ送ることで、倉庫が商品完成までの各工程をつなぐハブの役割を担っている。
- ・倉庫全体で 30,000 種類、3 階には 9,000 種類の在庫があり、各メーカー、直営店舗、個人顧客に発送している。
- ・以前は 4 人がかりで 6 時間かけて 10 トントラック 2 台分の集荷を運送会社に依頼していたが、中川政七商店側で商品を発送先ごとに仕分けることで集荷時間を 30 分に短縮し、運送会社との交渉によって送料の削減につながった。

【撮影室】

- ・白ホリでは商品の単独撮影、キッチンではシーン撮りをしている。
- ・倉庫内で撮影することで、使用シーンの撮影時に別の商品と組み合わせて撮影したくなった場合でも、同じ倉庫内から商品を調達することができ、非常に効率よく撮影できる。

○質疑応答

委員からは以下について、質問があった。

- ・インバウンドへの対応について
- ・人材雇用について
- ・内製化の判断について
- ・工芸品の販売促進に向けた課題について
- ・今後の展望について



2 奈良県営競輪場

【調査目的】

奈良県営競輪場の現状と再整備について

【調査概要】

奈良県営競輪場の現状と再整備について説明を受け、施設を見学。

○奈良県営競輪場の概要について

- ・昭和 25 年に開設され、今年で 76 年目を迎える。これまで累計約 342 億円を県の一般財源に繰り出し、地方財政に貢献している。
- ・地元雇用やにぎわいづくりに加え、災害時の自衛隊・緊急消防隊などの進出拠点となる広域防災活動拠点としての役割も担っている。
- ・現在の競輪売上額の 8 割以上が、インターネット投票によるもの。
- ・選手や審判、競輪実施法人などの様々な団体と連携して運営している。
- ・昭和 40 年代以降、スタンドの大規模な改築は行われておらず、施設の老朽化が課題となっている。

○奈良県営競輪場事業特別会計決算の推移について

- ・昭和 60 年頃から投票窓口の機械化、電話投票、場外発売などを導入し、平成 3 年に歳入総額のピークを迎えた。
- ・その後、娯楽の多様化などにより収益が低下し、平成 12 年に初の赤字決算となった。翌年、奈良県営競輪経営検討委員会が設置され一時的に黒字化したが、平成 21 年に再び赤字となったため、平成 24 年、競輪事業の存廃を含めた議論をするため、奈良県営競輪あり方検討委員会が設置された。
- ・民間事業者への運営委託、ミッドナイト競輪などの開催、インターネット販売の導入により黒字に回復し、令和 6 年の歳入総額は過去最高の約 338 億円となった。

○奈良県営競輪場の再整備について

- ・令和 12 年度の国民スポーツ大会リハーサル大会に向け、令和 11 年度内の工事完了を目指している。
- ・設計・建設・運営を一括委託する DBO 方式を採用。設計・施工費約 105 億円、令和 9 年から 8 年間の運営費約 68 億円を予算として見込んでいる。
- ・再整備では、新スタンド、女子宿舍、多機能棟を新設、平成以降に建築された管理センター、選手宿舍、飛天交流館は一部改修の上、引き続き使用するほか、競争路（バンク）の全面改修、夜間照明の設置などを行う。
- ・南西エリアは、自転車競技の普及やスポーツ振興に資する、地域住民や子供の居場所となる地域に親しまれる空間として事業者の提案により整備する。
- ・令和 8 年 9 月議会で本事業に係る設計施工についての議案を提出、令和 9 年 10 月から解体工事、令和 12 年から新施設で運営開始を予定している。
- ・工事期間中は、他の競輪場を借りて奈良競輪として開催するほか、場外発売は再整

備の範囲外で行う。

○奈良県営競輪場の施設見学

【ローラー室】

- ・28 台のローラー台があり、選手がレース前にウォーミングアップを行う場所。
- ・競走速度は時速 60～70 キロに達するため、安全な競走に向けた重要な施設となっている。
- ・再整備では老朽化している箇所、床や壁面などの補修を行う。

【検車場】

- ・検車場では、選手が自転車の整備と検査を行う。
- ・自転車の部品は、自転車競技法に基づきすべて国産となっている。

【スタンド／競走路】

- ・車券のインターネット販売が主流となり来場者が減少したため、スタンドの規模が過大となっている。
- ・奈良競輪場のバンクは 1 周 333 メートルで、ゴール前の直線が短く、差しが難しいため、先行選手が有利なコースとなっている。
- ・先行選手が有利なため予想しやすく配当が小さいことが多い一方、予想が外れると高配当になる傾向があり、平成 18 年には 100 円が 476 万円となる全国最高配当が記録された。
- ・毎年補修も行っているが、表面の傷を補修する程度にとどまっている。
- ・通常は 20～25 年ごとに改修を行うところ、競輪場の存廃問題が議論されていた時期と重なったため、地盤を削る大規模改修は昭和 62 年以来 35 年以上実施されていない。
- ・再整備では、老朽化したスタンドを解体し、敷地内に点在している運営上必要な機能を北側の新スタンドに集約する。

○質疑応答について

委員からは以下について、質問があった。

- ・工事中の広域防災拠点としての運用について
- ・ファンゾーンについて
- ・競争路（バンク）の改修について
- ・車券のインターネット販売について
- ・選手からの奈良県営競輪場の評価について
- ・再整備後の食堂、売店の設置について
- ・地元の雇用について
- ・売上の推移について
- ・全国の競輪場と比較した奈良県営競輪場の売上について
- ・インターネット中継について

